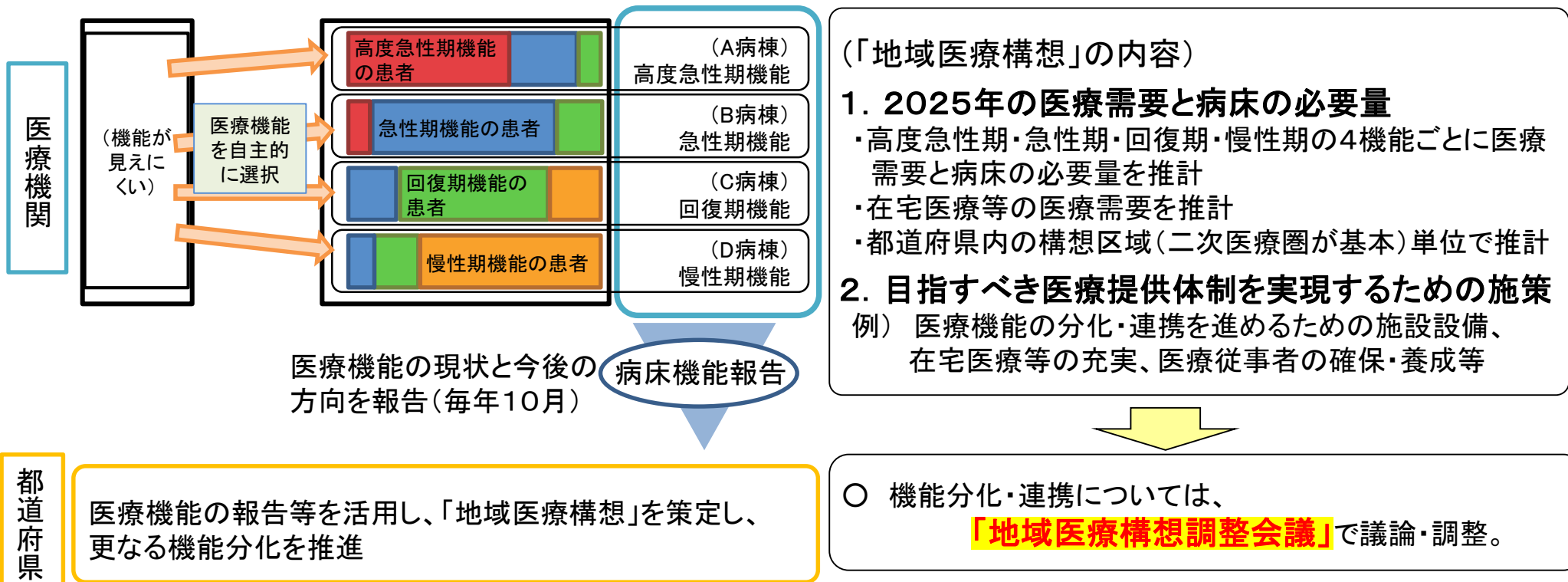


- 今後の人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築するためには、医療機関の機能分化・連携を進めていく必要。
- こうした観点から、各地域における2025年の医療需要と病床の必要量について、医療機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）ごとに推計し、「**地域医療構想**」として策定。
 その上で、各医療機関の足下の状況と今後の方向性を「**病床機能報告**」により「見える化」しつつ、各構想区域に設置された「**地域医療構想調整会議**」において、病床の機能分化・連携に向けた協議を実施。



京都府地域包括ケア構想（地域医療ビジョン）について

【京都府地域包括ケア構想（必要病床数の国推計）】

2016年度時点

2023年度

2025年（国推計）

【許可病床】

29,690床

一般病床：78%
23,386床

医療療養病床：12% 3,451床

介護療養病床：10% 2,853床

【入院患者実態調査】

28,153床

高度急性期：17%
4,875床

急性期：42%
11,746床

回復期：9% 2,450床

慢性期：32%
9,082床

【病床機能報告等】

28,294床

※介護医療院へ転換数を含む

高度急性期：14%
3,887床

急性期：37%
10,433床

回復期：18% 5,173床

慢性期：22%
6,318床

介護医療院への転換：9%
2,483床

【2025年ビジョン】

29,957床

高度急性期：11%
3,187床

急性期：32%
9,543床

回復期：28%
8,542床

慢性期：29%
8,685床

※医療系への機能転換
※新たな類型への転換

※介護医療院への転換数は高齢者支援課調査より